

伊丹福音ルーテル教会 復活後第五主日礼拝のしおり

2022年5月15日

前奏

招きのことば：詩編 148 編 1-6 節

ハレルヤ。天において主を賛美せよ。高い天で主を賛美せよ。
御使いらよ、こぞって主を賛美せよ。主の万軍よ、こぞって主を賛美せよ。
日よ、月よ主を賛美せよ。輝く星よ主を賛美せよ。
天の天よ天の上にある水よ主を賛美せよ。主の御名を賛美せよ。
主は命じられ、すべてのものは創造された。
主はそれらを世々限りなく立て 越ええない 掟を与えられた。

罪の悔い改めと赦しのことば

会衆： 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。
私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙祷を持ちましょう）

牧師： 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。
アーメン。

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、
陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。
生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、限りなきいのちを信ず。アーメン。

祈り

愛とあわれみに満ちておられる 私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝も共に礼拝にあずかり、罪の赦しをいただき、新しいいのちをいただいて一週間を始めます。

あなたは私たちをこの上なく大切にしてください、私たちをイエス様によって赦して、あなたの子どもとしてのびのび歩ませてくださいます。ですから私たちは神の子とされたお互いを大切に、兄弟姉妹としてあなたの祝福をわかちあって歩みます。今週も私たちが教会につどうお互いを覚えて信仰の祝福をとりなして祈ることができますように、困っていることを分かち合い、喜びを分かち合って歩むことができますように、どうぞあなたから新しい目、新しい耳、新しい心、新しい口、そして新しい手を与えてください。

新型コロナ・ウィルスの感染拡大を防ぐために、まだ緊張感を保たなければなりません。その中でも すべて御手にゆだね安心して、あなたの子どもとして 生き生きと生きる日々を与えてください。

この祈りを、私たちの救い主であり 主である イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

使徒書朗読：ヨハネの黙示録 21章 1-6節

わたしはまた、新しい天と新しい地を見た。最初の天と最初の地は去って行き、もはや海もなくなつた。更にわたしは、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために着飾った花嫁のように用意を整えて、神のもとを離れ、天から下って来るのを見た。そのとき、わたしは玉座から語りかける大きな声を聞いた。「見よ、神の幕屋が人の間にあって、神が人と共に住み、人は神の民となる。神は自ら人と共にいて、その神となり、彼らの目の涙をことごとくぬぐい取ってください。もはや死はなく、もはや悲しみも嘆きも労苦もない。最初のものは過ぎ去ったからである。」すると、玉座に座っておられる方が、「見よ、わたしは万物を新しくする」と言い、また、「書き記せ。これらの言葉は信頼でき、また真実である」と言われた。また、わたしに言われた。「事は成就した。わたしはアルファであり、オメガである。初めであり、終わりである。渇いている者には、命の水の泉から価なしに飲ませよう。

福音書朗読：ヨハネによる福音書 13章 31-35節

さて、ユダが出て行くと、イエスは言われた。「今や、人の子は栄光を受けた。神も人の子によって栄光をお受けになった。神が人の子によって栄光をお受けになったのであれば、神も御自身によって人の子に栄光をお与えになる。しかも、すぐにお与えになる。子たちよ、いましばらく、わたしはあなたがたと共にいる。あなたがたはわたしを捜すだろう。『わたしが行く所にあなたたちは来ることができない』とユダヤ人たちに言ったように、今、あなたがたにも同じことを言うておく。あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。互いに愛し合うならば、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、皆が知るようになる。」

讚美歌 494 番

- 1 わが行く道いつかになるべきかはつゆ知らねど 主は御心成したまわん
※そなえたもう 主の道を 踏みて行かん 一筋(ひとすじ)に
- 2 心猛(たけ)く たゆまざれ 人は変わり 世は移れど 主は御心成したまわん ※
- 3 荒海をも うち開き すなはらにも マナを降らせ 主は御心成したまわん ※ **アーメン**

説教：「互いに愛し合いなさい」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

イエス様が死人の中からよみがえってくださったイースターの季節です。毎年、礼拝でイースターのご挨拶をしています。「ハレルヤ、イエス・キリストはよみがえられました」と言いますから、皆さんは、「ハレルヤ、イエス・キリストはたしかによみがえられました」とおっしゃってください。

牧師：ハレルヤ、イエス・キリストは、よみがえられました！

会衆：ハレルヤ、イエス・キリストは、たしかに、よみがえられました！

あなたがたは互いに愛し合いなさい、互いに愛しあうならそれによってあなたがたがわたしの弟子であることを、皆知るようになる、とイエス様は言われました。イエス様はそこに、「わたしがあなたがたを愛したように」と言われています。イエス様は、イエス様が私たちを愛してくださったと同じように、また、イエス様が私たちを愛してくださったのですから、イエス様に愛されている私たちもお互いに愛し合いなさいと命じておられ、願っておられます。

イエス様が十字架にかけられる前の日のことです。最後の晩餐のとき、イエス様はしもべのようになって弟子たちの足を洗いました。サンダルのような履物で外を一日歩いたあと部屋で食事をするのですから、家ではしもべがもてなしのひとつとして足を洗う習慣があったのです。その日イエス様が弟子たちの足を洗いました。イエス様を裏切ることになる弟子のユダもそこにいました。

イエス様はついに十字架につけられて私たちすべての罪を赦すための大きな日が迫っていることを悟られ、弟子たちにあますところなく、このうえなく愛をしめされました。誰が一番弟子だろう、と自分のことしか考えていなかった弟子たちに、先生であるイエス様がみずから上着を脱いで手拭いをとって腰にまとい、たらいに水をくんで弟子たちの足をひとりひとり洗いました。そして水をふき取ってくださったのでした。これはイエス様が示した模範でした。こういわれました。「主であり、師であるわたしがあなたがたの足を洗ったのだから、あなたが

たも互いに足を洗いあわなければならぬ。わたしがあなたがたにした通りにあなたがたもするようにと、模範をしめしたのである(ヨハネ 13:14-15)。」

実はイエス様はユダが裏切るであろうことを知っておられました。6章 64 節や 70 節以降をみるとイスカリオテのシモンの子ユダがイエス様を裏切ろうとしていた、と記されています。しかしそのユダをも弟子のひとりとしてイエス様はいつくしんでこられました。このユダにサタンが入って、イエス様を裏切るため最後の晩餐の席を立てて出ていったとき、イエス様はいよいよ十字架で死ぬことが目前に近づいたことを知って、今、人の子、すなわちイエス様が栄光を受けた、と言われました。

栄光とは、そのものもっている本来の輝きのことです。栄光を受けた、ということは、まことの神様であるイエス様が人となって世に来てくださった本来の目的がいよいよ実現することです。イエス様は一粒の麦が地に落ちて死んで多くの実を結ぶと言われました。そのようにイエス様は十字架の上で死に渡されることによって、すべての人に罪の赦しを与えることができるようになりました。外を歩いて汚れてしまった足を洗うだけではなく、生まれつき自己中心わがままで、まことの神様を敬わず、隣人にも本当の愛のない私たちのすべての罪を洗い流して赦すために、まことの神様でありまことの人であるイエス様が十字架にかかって血をながし、肉をさかれて、いのちを与えてくださったのです。

これは父なる神様がお考えくださった、私たち神様に造られた者たちの救いのご計画でした。ですからイエス様は、ご自分のことを旧約聖書の中で救い主の称号として用いられた人の子と呼んで、神様もこの人の子によって栄光をお受けになった、とおっしゃいます。そして神様はまた、ご自分に栄光を与えた人の子に、ご自分の栄光を、すぐに与えます、と言われました。

ヨハネによる福音書 17 章ではイエス様はこのように言われます。「わたしは、行うようにとあなたが与えてくださったわざを成し遂げて、地上であなたの栄光をあらわしました。父よ、今、御前でわたしに栄光を与えてください。世界が作られる前に、わたしがみもとで持っていたあの栄光を。」父なる神様が私たちの罪の赦しのために愛する独り子イエス様を人として世に遣わしてくださいました。天地創造の前から御子として神様であったイエス様は、その栄光を捨てて人となってくださり、私たちにかかわって罪の正しい裁きを受けて恥と呪いの十字架で死んでくださいました。御子イエス様が父なる神様のこころを体現して、私たちのためにご自分のいのちを与えてくださいました。

最後の晩餐を終えて、これから捕えられ、苦しみを受け、そして十字架につけられていくことを予告して、弟子たちにわたしが行くところにあなたがたは来ることができない、と言われていますが、ほんとうにイエス様がおひとりですべての罪の赦しのためにすべての罰を担ってくださいました。

イエス様はこのあと、人が友のためにいのちを捨てること、これ以上に大きな愛はない、とおっしゃいました。このことばによってもイエス様のみ思いを知ることができます。イエス様はあなたやわたしを友として愛してくださいました。その愛を私たちが受け取り、その愛の中に私たちがとどまることがイエス様の喜びであり、またそれが私たちの喜びともなります。

イエス様を自分の罪を赦す救い主と信じて洗礼にあずかるとき、私たちは聖霊を受けて神の子どもとして新しいいのちを生き始めます。そのいのちは永遠のいのちです。永遠のいのちは、私たちの努力や願いを永遠に重ねていかなければならない辛い永遠のいのちではありません。神様が私たちのために与えてくださる永遠のいのちです。私たちが罪赦されて神の子とされるように愛をもって御子イエス様をお遣わし下さった唯一のまことの神様と、そして神様がお遣わしになった使命をご自分の喜びとして成し遂げてくださった主イエス・キリストを知る恵みと喜びに生きることです。

世にあっては、私たちは悪いものにとりかこまれています。楽天的に生きても、心には生傷がたえません。生きづらい世の中です。また、たくさんの不条理や不公平、不正や陰謀、憎しみの連鎖や殺し合いが屁理屈で正当化されて公然と行われています。自分の責任を果たしているのになぜこんなに苦しみを担っていかなければならないか、絶望しそうな自分をいつも何とか支えていかなければなりません。自分のうちにも醜い罪の性質があります。どんなによくしていただいてもすぐに忘れてしまいます。自分のしてあげたことを相手が重んじてくれないとみじめに思います。自分の権利はよく覚えています。プライドをたもてないと、どうせ自分はだめだったんだ、とがっかりしてしまいます。人につい攻撃的になってしまいます。誰にも邪魔されない自分の世界で気分よく生きていけたらどんなにいいかと思います。神様はそんな罪の世界で何とか生きている私たちに、神様の方から行動してくださいました。イエス様はそんな世に来てくださいました。そこで人々にさげすまれ、裏切られ、苦しみを受けて、死んでくださいました。それは世にあって、自分の罪の罠のなかから出れなくなっている私たちを救い出し、神様の子どもとしての新しいいのちを与えてくださるためでした。

では、罪赦されてあたらしいいのちを与えられた私たちは、世にいるあいだはその永遠のいのちをどのように生きていったらいいのでしょうか。心騒がせず、神様の愛を信じ、道であり、真理であり、命であるイエス様に信頼して歩む新しい歩みが与えられました。それは互いに愛し合うことです。

神様は全歴史をかけて、独り子のイエス様を私たちに与えるこれ以上ない犠牲をもって私たちを愛してくださいました。そして、イエス様が神様のみこころを自分の喜びとして人として生まれてくださり、十字架で死んでくださったほどにわたしを愛してくださいました。私たちはその愛を受けました。そして、イエス様がその人をもいのちをかけて愛してくださいている私たちの隣人を愛していきます。それはイエス様を共有している交わりです。イエス様に愛

され、赦されている者同士、イエス様を共有しているもの、イエス様にあってひとつとされているもの同士のすがたです。

世にあって、イエス様がわたしを愛してくださったように、互いに愛し合っています。イエス様はわたしをどのように愛してくださったか味わっていますね。いつも感謝をし賛美をしながら、既にそのような愛をいただいているのですから、隣人のために愛を生かしていきます。愛が足りないな、とおもったら、自分にはもともと愛の持ち合わせがないのですから、イエス様の愛をいただいていた原点に立ち戻って、悔い改めてイエス様を信じます。そして、このような互いの信仰のために、とりなして祈り合います。見返りの期待なしに時間やものや自分自身を互いに与えていきます。互いに、ということがすぐ起こらなくても、愛し続けます。自分をもっと磨いて、さらにゆたかに隣人の役に立てるように成長します。罪と憎しみの渦巻くこの世にあって、礼拝でみ言葉と聖餐のめぐみに預かり続け、ご自分を裏切るものにも同じように愛を注ぎ続けてくださったイエス様の赦しといのちにあずかりつづけていくことで、私たちにも互いに愛し合う力と愛と慎みが与えられます。

「互いに愛し合うならば、それによってあなたがたが私の弟子であることをみなが知るようになる」とあります。なぜなら、イエス様の弟子のように私たちもイエス様が愛してくださっていることにいつも立ち返ることではじめて互いに愛し合うことができます。また、そのようにして互いに愛し合う姿が、私たちが主イエス様の弟子だと証しするということなのです。

「互いに愛し合うならば、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、皆が知るようになる。」 ヨハネによる福音書 13章 35節

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってください。アーメン

牧師：ハレルヤ、イエス・キリストは、よみがえられました！

会衆：ハレルヤ、イエス・キリストは、たしかに、よみがえられました。

讚美歌 234A 番 献金 献金感謝の祈り

- 1 昔主イエスの播きたまいしいとも小さき命のたね
芽生え育ちて地のはてまで その枝を張る 樹とはなりぬ。
- 2 歴史の流れ 旧きものを 返らぬ過去へ 押しやる間に
主イエスの建てし 愛の国は 民よりたみへ 広がりゆく。
- 3 時代の風は 吹きたけりて 思想の波は あいうてども
すべてのものを 超えて進む 主イエスの国は 永久(とわ)に栄えん。
- 4 父なる神よ み名によりて 世界の民を ひとつとなし
地をばあまねく み国とする みちかいを疾(と)く はたしたまえ。 アーメン

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあげさせたまえ。みくにを来たせたまえ。
みこころの天になるごとく地にもなせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。
われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。
われらを試みにあわせず、悪より救い出されたまえ。
国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

頌栄：讃美歌 541 番

父、御子、御霊のおお御神に ときわにたえせず み栄えあれ み栄えあれ **アーメン**

祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき
お交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、
豊かにありますように。 **アーメン**

後奏